東京都美術館ニュース

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

No.470

start

輝くあの人とartの素敵な出発点

Interview

貫地谷しほり

KANJIYA Shihori

**コミカルなキャラクターから
シリアスな役どころまで、
魅力的に演じ分ける女優の貫地谷しほりさん。
旅先では必ずといっていいほど
現地の美術館を訪れるという貫地谷さんに、
アートの楽しみ方や
鑑賞方法などをうかがいました。**

Whether comical or serious roles,
actress KANJIYA Shihori brings something unique to
each character she plays. When traveling,
KANJIYA never fails to visit the local art museums
at her destination. We asked her about
her enjoyment of art and her approach to art viewing.

生死をかけて描かれた一枚の絵に感動

自分で絵を描くのは得意ではないのですが、アートにふれることは好きで、ロケで地方に出かけたとき、仕事やプライベートで海外に行ったときにも、現地の美術館をよく訪れています。

特に印象深かったのは、8年ほど前にスペイン・マドリードのプラド美術館に行ったときのこと。そこでみたフランシスコ・デ・ゴヤの《裸のマハ》という横たわる全裸の女性の絵は、忘れられない一枚となりました。アートに明るい現地のコーディネーターさんの解説を聞きながら鑑賞したのですが、その絵が描かれた19世紀初頭のスペインでは、女性の裸体画は背徳的とされ、描くのを禁じられていたそうなんです。自ら描きたかったのか、誰かに依頼されて描いたのかはいまだに謎らしいのですが、見つかったら投獄され、処罰されるような時代に、命懸けで自分の「描きたい」という情熱に向き合ったわけですよね。私も方法は違えど表現する仕事をしているので、その絵をみているうちに「自分は果たしてゴヤのような向き合い方ができているのだろうか…」と、悔しさがこみ上げ、美術館を出たとたん涙が止まらなくなって。それくらい衝撃を受けた出会いでした。

作品のバックグラウンドを知ると、感情移入をしたり、より深く作品を堪能できたりと感じた最初の体験でした。

作品の背景や画家の想いを知るとみえかたが変わることも

ピカソの《ゲルニカ》を初めてみたときのことも、鮮明に覚えています。横幅が8メートル近くもあろうかというその大きさに圧倒されながらも、描くきっかけとなった無差別爆撃の話や戦争の悲惨さを表したという説明を聞きました。そ

作品の背景を知り、作者のメッセージに気づいたとき心が震えるほど感動します

I feel moved to my soul when I catch the artist's message, after learning about the artwork's background

貫地谷しほり（かんじや・しほり）
1985年生まれ。東京都出身。俳優。2004年、映画『スウィングガールズ』で注目を集め、2007年、連続テレビ小説『ちりとてちん』（NHK）で主演を務める。2014年、映画『くちづけ』でブルーリボン賞主演女優賞を受賞。2020年、『ディア・ペイシェント～絆のカルテ～』（NHK）で主演のほか、『顔だけ先生』（東海テレビ、CX系）に出演。『プロフェッショナル仕事の流儀』（NHK）のナレーションなど活躍の場を広げている。

れまでは「有名な、少し異様な絵」という印象をもっていましたが、説明を聞いた後では全く違うみえかたをするようになりました。同時に、反戦への想いをこれほど巨大なキャンバスに、それもあえてモノトーンでぶつけたというピカソの強い信念に、心が揺さぶられました。

こうした体験を重ねるたびに、作品が生まれた背景や画家の想いを知りたいという思いが強くなっていきました。《ゲルニカ》に限らず、すべての作品にはストーリーがあり、画家の生き方まで反映されているはず。でもそこまで私は詳しくないし、アートのみかたも自己流です。だからこそ、美術館に行くときにはアートに詳しい人と一緒に行ってエピソードを聞いたり、音声ガイドも利用したりして、何を表現したかったのか理解したいと思っています。

とは言え、最初から解説ありきではありません。まずは何の予備知識も入れずに作品だけをじっくりみます。その後で、詳しい人からレクチャーを受けたり、作品解説ボードを読んだりして知識を入れます。そうすると、何も知らない真っ白な状態でみていたときとは違う感情が芽生えたり、みえかたが変わったりすることも。

また、最初に「なんだか怖い…」と感じたり、奇妙な感覚に包まれたりしたとき、その作品には政治的な問題提起があった、こういう凄惨な物語があったなどという説明を後から聞くと、「なるほど、だから怖いような感情が湧いてきたんだ」と“答え合わせ”ができて、腑に落ちることがあります。

アートにふれることは、俳優をするうえで、とても刺激をもらえるもの。画家が生涯をかけて伝えたかったメッセージがアートを通してみえたときにはとても感動し、自分の中に引き出しが増えていくのを感じます。

ミュージアムショップでの買い物も美術館の楽しみ

上野は私のホームグラウンドで、小さな頃から友人や家族と何度も訪れています。小学校

の遠足で来て、上野公園の広場に座ってみんなで絵を描いたりしたのも、懐かしい思い出。写真もよく撮っていました。屋台の食べ歩きが楽しい弁天堂の参道も、博物館や美術館のある一帯も、今も変わらず好きです。

なかでもここ東京都美術館は、館内の雰囲気もさることながら、外壁の、温かみのあるレンガ調の色合いが大好き。来るたびに「カッコいい建物！ ここに住みたい！」と本気で思っているくらい（笑）。これまでたくさんの展覧会を拝見しましたが、特に心に残っているのが、「生誕300年記念 若冲展」（2016年）。圧巻の画力と迫力に圧倒され通しでした。花鳥画に代表される、あの観察眼はどこからくるのか。人の手であそこまで緻密に描けるものなのでしょうか。伊藤若冲の強い執念のようなものを感じました。

最近では「ゴッホ展――響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」（2021年）もとてもよかったです。描かれている人や風景、自然がそのままそこで息づいているみたいで、胸を打たれました。

私の美術館滞在の締めくくりは、ミュージアムショップでの買い物です。展覧会を拝見した記念に、手提げバッグやノート、Tシャツなどを買うのは楽しいものです。

まもなく始まる「スコットランド国立美術館 THE GREATS　美の巨人たち」では、名だたる巨匠たちの作品がみられるという、ミーハーな私にとっても楽しみです。なかでもベラスケスの《卵を料理する老婆》を、ぜひみてみたいですね。肌の感じがリアルで、何か言いたげな表情の老婆と少年。この絵にも、また背景がありそうなので、ぜひ音声ガイドを借りて解説を楽しみながら鑑賞したいと思っています。

＊撮影場所：東京都美術館 公募棟にて
＊2021年12月10日インタビュー

start

Francisco Goya's painting *The Nude Maja* impressed me profoundly like never before when I saw it at Museo Del Prado in Madrid eight years ago. According to the local coordinator, who knew about art, Goya created the painting in early 19th-century Spain when painting nudes of women was forbidden. Being caught meant going to prison. Goya's passion to paint what he felt he must paint—at the risk of his life—struck me deeply.
When seeing Picasso's *Guernica*, as well, I learned about the indiscriminatory bombing of civilians that moved Picasso to paint the work. His earnest desire to express his disgust with war on a large canvas, intentionally in black and white, stirred me profoundly.
After many such experiences, I feel like I want to know the background from which a work was born and the artist's thoughts and feelings. When going to the art museum, I try to talk to people knowledgeable about art to learn the stories behind the artworks. I also use the audio guide.
I like to see an artwork first without any preparatory knowledge. Next, I attend an art expert's lecture or read commentary on the artwork. Then, when I return to see the artwork again, it moves me in ways that differ from when I saw it without knowing anything, and I understand why the artwork gave me the feelings it did when I first saw it.
Among exhibitions at the Tokyo Metropolitan Art Museum, "The 300th Anniversary of his Birth: Jakuchu" impressed me deeply. I felt overwhelmed by Jakuchu's command of drawing and expressive power. When I see "THE GREATS: Masterpieces from the National Galleries of Scotland" which starts in April, I will be sure to use the audio guide and enjoy the commentary while viewing the works.

スコットランド国立美術館
THE GREATS　美の巨匠たち
THE GREATS:
Masterpieces from the National Galleries of Scotland

会期
2022年4月22日（金）～7月3日（日）

展覧会公式サイト
https://greats2022.jp

展覧会の舞台裏

Creating Exhibitions

新型コロナウイルス対策の緊急事態宣言中に開幕した「ゴッホ展――響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」（会期：2021年9月18日～12月12日）。コロナ禍で見通しが立ちづらい中で開催準備が進められました。作品輸送と展示を手掛けた、ヤマト運輸株式会社東京美術品支店マネージャーの林一樹さんにその舞台裏をうかがいました。

Due to the COVID-19 pandemic, the exhibition "Collecting Van Gogh: Helene Kröller-Müller's Passion for Vincent's Art" (September 18– December 12, 2021) was held during a state of emergency. Under unforeseeable conditions, preparations went ahead to open the exhibition as scheduled. HAYASHI Kazuki of YAMATO TRANSPORT Tokyo Fine Arts Branch handled the transport and display of the artworks. We asked Hayashi to describe the drama behind the scenes.

技術と経験を活かし作品を動かすリスクを最小限にして次世代にベストな状態で作品を繋ぐ

Expertise and experience are needed when moving artworks, to minimize risks and protect the artworks for future generations.

展覧会の根幹を支える輸送

ヤマト運輸では宅配便事業を開始する約20年前、1958年に美術品輸送事業をスタート。1987年には、日本の損保会社がオークションで落札したゴッホの作品《ひまわり》のロンドンから日本への輸送を担当するなど、ゴッホには縁があるという。

今回の「ゴッホ展」では、所蔵館のクレラー＝ミュラー美術館で厳重に梱包された作品が日本に到着してから、東京、福岡、名古屋での展覧会を経て、作品が日本を発つまでを同社が担っています。「展覧会は実際に作品がないと成立しません。作品の輸送と展示という、大変重要な仕事を担っていると感じています」と林さん。

日本に到着した作品は、美術品の輸送を専門に扱うスタッフが「美術品専用車」と呼ばれる特別な車で東京都美術館に搬入し、すぐに収蔵庫に運び込まれ、クレートと呼ばれる輸送用の箱に梱包されたままの状態で24時間以上静置されます。

「美術品を動かすことには、必ずリスクが伴います。輸送や展示を行うのに、動かすリスクをいかに減らすかが重要」、ここに技術と経験が活かされるといいます。

東京都美術館への輸送で使用された「美術品専用車」は、エアサスペンション付きで振動を軽減するほか、展示室や収蔵庫と同じように温度・湿度が変わらないように荷台の空調もコントロールされています。ダブルキャビンタイプで当館の学芸員も同乗しました。

オンラインを活用したリモートでの展示作業

まず、収蔵庫で24時間以上静置された作品をクレートのまま展示室に運びます。「クレートを開梱し、点検台の上に置いた作品を修復家の方が点検し、それを実際に壁に掛ける」というのが展示作業の一連の流れです。

その作業は作品ごとに行われ、作品輸送と同様にクレートの移動や開梱等には細心の注意が求められます。「本来なら、所蔵館から作品に随行して修復家や学芸員が来日します。輸送やクレートの開梱など一つ一つの作業を一緒に確認しながら進めます。ところが日本とオランダ

両国のコロナウイルス感染症の影響により、オランダ側の修復家や学芸員が来日できず、オンラインを活用したリモートでの確認作業になりました」。通常なら目の前でやり取りできたものが、リモートでは一工程ずつ画面で見せて、確認を取りながら複数回の確認プロセスを踏んだそう。

「クレートの運び方、開け方、作品を点検台の上に置くまで、オランダから画面越しに細かな指示が入ります」。その中で一番傾注したのが、「作品を動かす回数を可能な限り減らすこと。無駄なことはやらず、必要最小限の動きで展示することです」。

リモートでの展示作業中、「都美の学芸員に相談しながら、作品の額のサイズと同じ大きさの段ボールを仮に置いて、展示位置を決めることもしました。修復家が作品の状態を確認する間に、学芸員は展示の位置を決め、ヤマト運輸のスタッフは展示金具の準備をし、先に壁に金具をつけておくという連携により、作品点検が終わるのと同時に壁に掛けるスムーズな流れを作りました」。限られた展示日数の中で効率よく、作品を動かす回数も極力減らすことで作品へのリスク軽減につなげています。

ヨーロッパで進むリターナブル

国内では、個別の作品に合わせてクレートをオーダーメイドで作成し、輸送が終わると使い捨てされることが多い中、ヨーロッパではリターナブルクレートの導入が進んでおり、今回のゴッホ展でもリターナブルクレートが採用されていました。

「クレートの取り扱い方法が、いわゆる蓋を外せば作品が出てくるというタイプのものではなく、押さえのネジを外したり、箱の開け方もネジを回して外したり、独特の取り扱い方法がありました。まずそれをきちんと覚えるというのが、これまでの展覧会との大きな違いでした」。ヤマト運輸でも長年の経験を活かし、繰り返し使える美術品専用箱の開発もしています。輸送技術も進化する中、「その時々に合わせて臨機応変に柔軟に対応することが大切」といいます。「『ゴッホ展』は都美で閉幕後、福岡市美術館、名古屋市美術館と巡回します。展覧会ごとに輸送・展示を繰り返し、作品が日本を離れる日まで私たちの仕事は続きます」。

"Moving artworks is always accompanied by risks. Carefully taking measures to minimize risks when transporting and displaying them is extremely important." This requires technical expertise and experience, HAYASHI says. Moving and unpacking the crates in order to install the artworks on a wall requires the same level of care as transporting them.
"Normally, a restorer or curator will accompany the artworks to Japan from the holding museum, and we then confirm the artworks together, one by one. Because of the COVID-19 infection risk in both Japan and the Netherlands, however, the Dutch restorer or curator could not come to Japan, so this task was handled remotely, online." Working remotely required stopping to view the monitor and confirm the procedure with the person overseas, at each step of the way. "Detailed instructions were relayed to us online during all procedures—from transporting and unpacking the crates to placing the artworks on the inspection table," HAYASHI recalls. Intense concentration was required to "move the artwork a bare minimum of times" and "install it with as few movements as possible."
Unpacking and installing an artwork while following instructions remotely online was time consuming. By working with maximum efficiency in the days allotted, moving the artworks as little as possible, they could lighten the risks to the artworks.
"After closing at the Tokyo Metropolitan Art Museum, "Collecting Van Gogh" travels to Fukuoka Art Museum and Nagoya City Art Museum. Each time, we take the same care in transporting and displaying the artworks, and our work will continue until the artworks leave Japan."

＊2022年12月7日インタビュー

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。今回は、SDGsで建築を探究?!「Museum Start あいうえの」のファミリー＆ティーンズ・プログラムを紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time we look at a "Museum Start iUeno" Family & Teens Program—"Exploring architecture through the lens of SDGs"

ファミリー＆ティーンズ・プログラム
「SDGsで探究！名建築をみる」

Family & Teens Program
"Through the lens of SDGs! Exploring architectural masterpiece"

museum start
あ い う え の

2021年度のあいうえの「ファミリー＆ティーンズ・プログラム」では、1day、2days、3daysの3種類のプログラムを実施。なかでも、1dayプログラムでは、SDGsをキーワードに当館の建築をみる、というプログラムを実施しました。

In fiscal 2021, three kinds of programs were offered under the iUeno "Family & Teens Program": 1-day, 2-days, and 3-days. Among them, the 1-day program took Sustainable Development Goals (SDGs) as a keyword for exploring the Museum building.

「Museum Start あいうえの」とは？

What is "Museum Start iUeno"?

上野公園の9つの文化施設が連携して取り組む、子どもと大人が創造的に学び合う「アクティブ・ラーニング・プロジェクト」。「すべての子どもにミュージアム体験を！」をモットーに年間を通して「観察と鑑賞」と「対話」を基本にした参加型プログラムを実施しています。先生でも親でもない第3の大人「アート・コミュニケータ（とびラー）」が一緒に活動することも「あいうえの」の特徴です。

"Museum Start iUeno" is an "active learning project" conducted jointly by 9 cultural facilities in Ueno Park. Its aim—to foster an environment where children and adults can creatively learn together and from each other. Under the motto, "Aiming to give a special museum experience to every child," participatory programs founded on "observation and appreciation" and "dialogue" are held throughout the year. The project's special feature is its "art communicators" (*Tobira*), a third adult, neither teacher nor parent, who joins participants in activities.

GOOD DESIGN AWARD 2019　こども環境学会

建築をSDGsで観察すると…？

Exploring architecture through the lens of SDGs

「SDGsで探究！名建築をみる」では、SDGs*をキーワードに当館の建築を探検し、観察します。現在の建物は、日本のモダニズム建築を牽引した建築家・前川國男の設計により1975年に竣工しました。21世紀の現代においても、その建築に込められた思想に多くの人が関心を寄せ、奇数月第3土曜日に行っている建築ツアーは、募集開始後すぐに満席になるほど人気があります。

例えば「平凡な素材で非凡な結果を出す」、「公園からの視界を遮ることなく、広場の続きのような場所であるように」などの考えを設計に反映していますが、それらは「建築は100年もつものでなければならない」という前川の建築に対する思想に基づいており、今で言うところの

参加者から投稿された冒険ノート。冒険ノートはQRコードからご覧いただけます

Adventure's Notebook posted by participants
For other notebooks, please see https://museum-start.jp/book

活動中の様子　Scene of activities

SDGsに通ずる点があります。設計した当時にはSDGsという概念はありませんでしたが、高度経済成長の時代としては、とても先駆的な考え方で設計したことがわかります。

このプログラムでは、前川の設計における工夫に着目し、子どもたちと当館の建築を観察しながら巡ります。探検に出かける際には「誰かに教えてあげたいと思うところを探せ！」（小学1～4年生）、「100年後に残したいと思う場所（もの・空間）を見つけよう」（小学5年生以上）など観察のポイントが書かれた「シレイショ」が渡されます。

子どもたちはグループに分かれ、とびラーと一緒に、椅子や床、天井、照明など普段は見過ごしそうなところにも注目しながら、色や形、素材など「なぜそうなっているのかな？」と、観察していきます。参加した子どもたちには、あいうえの特製ツール「ミュージアム・スタート・パック」も手渡されます。帰宅後にツールに入っている「冒険ノート」に発見したことを記録しウェブサイトに投稿する仕組みがあり、実際に美術館を見て体験し、後日各自がオンラインで発表することにより、美術館体験を深めていくことができます。

子どもたちの活動中に、保護者には子どもと一緒に美術館・博物館へ出掛ける際の「コツ」を伝え、その後、子どもたちの活動の様子を見る時間を持ちます。保護者の事後のアンケートには「初めて会う同年代の子どもたち、とびラーの方と“同じ目的をもって行動する”ということに怖気づかず楽しく過ごせたことに驚くとともに、成長している子どもの姿を見ることができました」、「講堂に戻ってきた娘が楽しそうに発見を話してくれた」、「（子どもが）主体的に観察できる場がよかったです」などの感想が寄せられました。

子どもと大人が一緒に心地よいミュージアムスタートができるよう、これからも良質なプログラムの実施を続けていきます。2022年度のプログラムラインナップは、2022年5月頃にあいうえの公式サイトで公開予定です。

（東京都美術館 学芸員　河野佑美）

Museum Start iUeno offers programs for families and teenagers. One is “Through the lens of SDGs! Exploring architectural masterpiece,” a program for seeing and discovering the architecture of the Museum building. Along with art communicators (*Tobira*), children explore every corner of the architecture of this museum, which architect MAYEKAWA Kunio designed in the 1970s based on forward-looking thinking that anticipates today’s SDGs. In content, the program enables participants to appreciate the museum’s spaces using their body and senses.
Comments from parents include, “It was surprisingly fun to be active under a common purpose with people we had never met before—children of the same age and *Tobira*—without feeling nervous. We also could observe the children’s process of maturing.” iUeno will continue to implement high-quality programs so that children and adults can comfortably make their museum debut! The fiscal 2022 program lineup will be announced around May 2022 on the official iUeno website.

(KONO Yumi, Associate Curator, Learning and Public Projects)

Museum Start あいうえの
公式サイト

＊SDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す国際目標です

公募団体・学校教育展

東京都美術館は、年間約270団体の展覧会が開催される「公募展のふるさと」です。
美術団体や学校教育機関などが作る新しい作品との出会いの場をさまざまなトピックでご紹介します。

The Tokyo Metropolitan Art Museum is "the home of the public entry exhibition."
Each year, some 270 groups hold exhibitions here. Visitors can enjoy encounters with new works by art groups and school education institutions, presented under a wide range of topics.

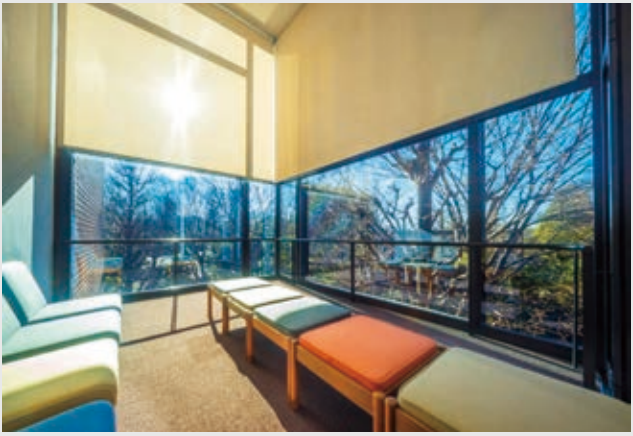
公募棟・窓のリニューアル中
―公募展示室のメンテナンスについて

Renovating windows in the Citizen's Gallery Wing
―Concerning maintenance work in the Citizen's Galleries

工事中の公募棟第１棟・第２棟
Renovating windows in the Citizen Galleries 1 and 2

2021年11月から2022年1月まで、公募棟第１棟・第２棟の西側外壁が足場とメッシュシートで被われていたのをご存じだったでしょうか。展示室を利用する団体には事前にお知らせしましたが、2021年度から２年にわたって、公募展示室奥にある休憩室の窓をペアガラスに取り替える工事を行っています。

公募棟は2012年のリニューアル時に内外の改装を行いました。前川國男が設計した躯体がそのまま活かされ、周辺を見渡せる大きな開口部が特徴的な建築です。西側の開口部は、上野動物園を望む緑豊かな風景を楽しめる一方、展示室と



ペアガラスに変わった休憩室の窓

Rest area windows replaced with double glazing

繋がっている部分でもあります。展示環境保全の観点から、このたび外気の影響を受けにくいペアガラスを導入することになりました。

とは言っても、公募展示室は年３回、1週間ある整備休室と、第一、第三月曜日の休室日以外は、年間40会期、のべ314日間フルに稼働しています。展示室の利用に支障のないよう、騒音を出さず安全に工事を行うため、展示会期中は足場とシートの設置にとどめ、年末と1月中旬の整備休室中にそれぞれ1棟ずつ、ガラスの交換を行いました。2022年度は、第３棟・第4棟の交換を同じ時期に行う予定です。

当館では、前川建築の特徴を維持しながら、より良い展示環境を持続していけるよう建物管理を行い、定期的に設備のメンテナンスを行っています。

展覧会をご覧になった後、休憩室で一息つくのが習慣だという方もいらっしゃることでしょう。工事期間中はご不便をおかけしますが、新しい窓ガラスからの眺めを楽しみにしていただければと思います。

（東京都美術館 交流係長　岡本純子）

From November 2021 to January 2022, maintenance work will be undertaken to install double glazing in windows of the front corridor rest areas of Citizen Galleries 1 and 2.
The Citizen's Gallery Wing interior and exterior were renovated during 2012 museum renovation. The entry portion on the west side offers lush green views of Ueno Zoo but also connects with the gallery. Insulated glazing, which reduces the impact of outside air, will be installed to protect the gallery environment.
To undertake work safely and quietly without obstructing gallery activities, scaffolding and sound barrier sheets only will be installed during exhibitions. Window glass will be replaced in one rest area at a time during New Years and the mid-January closure for maintenance. Installation of double glazing in Citizen Galleries 3 and 4 is scheduled for the same period the following fiscal year.
The Museum regularly undertakes equipment maintenance to ensure an optimal exhibit environment while maintaining the special character of MAYEKAWA architecture.

(OKAMOTO Junko, Chief of Creative Connections)

美術情報室は、図書・図録・雑誌などを閲覧できるライブラリー。
アーカイブズでは、館の歩みに関する資料を収集・整理・保存・公開しています。

A library open for perusal of reference books, catalogues, and magazines.
The Archives collect, preserve, and display materials documenting the museum's progress.

美術情報室のレファレンス事例紹介

Actual example: Library and Archives Reference Service

美術情報室では調べものや資料探しのお手伝いをする「レファレンスサービス」に力を入れています。その事例をご紹介します。

The Library and Archives "Reference Service" helps people do research and find materials. Here, we give an actual example.

質問

4点あるムンクの絵画《叫び》のうち、2018年10月から翌年1月にかけて東京都美術館で展示された《叫び》（オスロ市立ムンク美術館所蔵、テンペラ・油彩）は初来日だそうだが、それ以外の3点の絵画が、最後に日本で展示されたのはいつ、どこでか。

回答

ムンクの絵画作品総目録第1巻*の展覧会歴によれば、オスロ国立美術館所蔵の《叫び》（テンペラ・クレヨン、厚紙）は、1993年10月から12月に東京と大阪の出光美術館で開催されたムンク展。オスロ市立ムンク美術館所蔵の《叫び》（クレヨン、厚紙）は、1997年4月から6月の世田谷美術館でのムンク展。どちらの作品もそれ以前に何度か日本各地で展示されています。個人蔵の《叫び》（パステル、厚紙）は来日していません。

* GERD WOLL, *EDVARD MUNCH COMPLETE PAINTINGS*, CATALOGUE RAISONNÉ VOL.I 1880-1897, Thames & Hudson, 2009

Question: One of Edvard Munch's four *The Scream* paintings came to Japan for showing from October 2018 to January the following year. When and where have the other three versions most recently been exhibited in Japan?
Answer: According to the exhibition history in *Edvard Munch : complete paintings : catalogue raisonné* v.1 (Gerd Woll, Thames & Hudson, 2009), *The Scream* (tempura, crayon on cardboard) in the collection of the National Gallery in Oslo was displayed during a Munch exhibition at Idemitsu Museum Tokyo and Osaka from October to December 1993. The version of *The Scream* (crayon on cardboard) in the collection of Munch Museum in Oslo was exhibited at the Setagaya Art Museum from April to June 1997. Both versions have since been exhibited multiple times in Japan. The version of The Scream (pastel on cardboard) in a private collection has never come to Japan.

TOPICS

Restaurant & Café
レストラン＆カフェ

期間限定のここでしか味わえない

「展覧会コラボメニュー」

Exhibition-inspired “collaborative menu”
available for a limited time

特別展開催中に東京都美術館内の２つのレストランとカフェで展開される展覧会コラボメニュー。作品がある国や地域の食文化や、作品からのインスピレーションを受けたシェフが、レシピを考え、試作を重ねてコラボメニューが誕生します。

写真は、「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」に寄せた特別メニューです。素材や盛り付けの一つ一つにシェフの想いが込められています。鑑賞の余韻とともに、ここでしか味わえない期間限定のコラボメニューをお楽しみいただけます。

現在、試作中の「スコットランド国立美術館 THE GREATS　美の巨匠たち」のコラボメニューもまもなく誕生します。どうぞお楽しみに。

（東京都美術館 管理係）

Our two restaurants and café offer an exhibition-inspired “collaborative menu” during special exhibitions at the Tokyo Metropolitan Art Museum. Taking hints from the collecting museum’s home country, its regional food culture, and the artworks themselves, the chefs create recipes and experiment variously to produce the collaborative menu.
The chef’s thoughts and ideas are behind the ingredients and appearance of each menu item. Visitors can enjoy a menu available for a limited time only at this museum, whose tastes will enhance their experience of the exhibition.
Now under creation—a collaborative menu for “THE GREATS. Masterpieces of the National Galleries of Scotland.” See the exhibition and enjoy the menu. (Administrator Section)

レストラン ミューズの鈴木宙生シェフが素材に選んだのは、“天使えび”。ハート形に盛り付けられた天使えびとヴァンブランソースにはバルサミコで描いた手紙をイメージしたフェルメール《窓辺で手紙を読む女》から誕生したメニューです。

レストラン サロンの国井博明シェフは、オランダやフェルメールの生まれた当時をイメージしたメニューを開発。メインには牛粗挽き肉のロースト、目にも華やかな盛り付けのコース料理となりました。

カフェ アートでは、オランダの伝統菓子「ストロープワッフル」をイメージしたデザート「ストロープワッフル風 キャラメルアイスクリームとナッツ添え」が誕生しました。

Bonjour mojo2 店主

大平由美さん

Proprietor, Bonjour mojo2
OHIRA Yumi

下町の風情を残しつつ、最先端の店も軒を連ねる上野界隈。今回は、愛らしい動物パンで子どもから大人までも“とりこ”にするパン屋の店主が、根津の魅力を紹介します。

The Ueno area features many trendy shops while retaining the mood of Tokyo's old downtown quarter.
The cute animal-shaped rolls of bakery “Bonjour mojo2” capture the hearts of people of all ages. We asked its proprietor about Nezu's appeal.

大平さんが顔をのぞかせると、思わず微笑んでしまうお客さんも。動物パンはイラスト入りメニューから欲しいパンを告げ、奥から出してもらう対面販売スタイル

Customers smile brightly when OHIRA shows her face. An illustrated menu announces new bread products, which she brings to customers at the counter.

自然に助け合いをする土壌がある町 根津の路地裏散策でタイムスリップ

A district whose people gladly help each other. Walking the Yanesen backstreets is like traveling back in time

根津の藍染大通りに繋がる路地裏に動物パンの店を構えたのは、2011年秋のことです。実家が営むパン屋の店名から「ボンジュール」を取り、くるくるとパーマをかけた私の髪型のイメージから、店名を「ボンジュール モジョモジョ」としました。

さまざまな縁が重なってここで開業したのですが、狭い路地という商売の立地としては必ずしも好条件ではなかったせいか、最初は「本当にあそこで大丈夫?」といろいろな人から心配されました。それでも「ふっくらとしたパン生地が美味しい」、「動物の顔がかわいい!」と近所の方にひいきにしていただけるようになり、今では「いつものちょうだい」と言いながら来られる常連さんや、小銭を握りしめてやってくる子どもさんまで、地元の皆さんに支えられてここまできました。一番人気は中身がクリームのうさぎパン。つぶあん、ジャム、クリームの3味が楽しめるいも虫パンも好評です。

この地に住むようになって10年経ちますが、根津界隈は本当に暮らしやすい。たまに用事

でほかの街に出かけると、帰ってきたとたんにホッとするくらい、私にとって居心地のよい、安心できる場所になりました。

その一番の魅力は、なんといっても人。子どもから年配の方まで、とてもあたたかいんです。最初から、私のような新参者に対しても、ずっと知り合いだったかのように気さくに接してくださり、「困ったことがあったらいつでも言って」と声をかけてくれました。実際、何かあればすぐに相談に乗っていただけます。自然に助け合いをする土壌が昔からあるようですね。

私が店先にいれば、前を通るほとんどの方がひと声かけてくださり、次のお客様が来られるまでずっと話し込んでいかれる方も（笑）。人と人との距離の近さを感じる町ですね。

また、そこかしこで子どもの元気な声が聞こえてくるのもこの界隈ならではなのではないでしょうか。車が来ない路地も多く、地べたに座り込んで遊び、いろんな年代の子どもたちが一緒にかけっこなどをしている風景も、ここでは日常。大人は、たとえ知らない子であっても「日が暮れるからそろそろ帰りなさーい」と声をかけ、子どもも「はーい！」と元気に応えるような、どこか懐かしい光景が当たり前に広がっているのがこの一帯なのです。

私が皆さんにおすすめしたいのは、古い面影が残っているこの町の路地裏散策です。上野から続くこのエリアは有名な観光スポットが多く、休日には遠方からもたくさんお見えになりますが、ここ根津は、ひたすら歩くことが楽しい町。通りから一本入った路地にも、素通りしてしまうような細い道にも、こぢんまりとした雑貨屋やこだわりの専門店、美味しい食べ物屋さんがあり、緑もとても多い。歩いているだけで新たな発見があるので、疲れたらこの付近を散歩し、疲れを吹き飛ばしています。

特に私のお気に入りは、戦禍をくぐり抜け、昭和にタイムスリップしたかのような建物を見つけること。ぜひ皆さんも大通りから足を伸ばして、根津の路地裏をゆっくり歩いてみてください。思いがけない出会いがあるはずです。

民家を改装した、レトロなたたずまい。近くにあるコッペパンの店「大平製パン」と「サンドイッチとパンのお店 大平パン」は姉妹店

Old-fashioned atmosphere of a renovated house. Nearby are sister stores, the “Ohira Bread” bun shop and “Ohira Bakery” sandwich and bread shop.

店先には「以前スタッフだった藝大生が描いてくれた」という手描きイラストのメニューがズラリ

Storefront display: illustrated menus “drawn by an arts university student who formerly worked as staff.”

In the autumn 2011, I opened an “animal bread” shop in a back alley of Aizen Boulevard in Nezu. Not a good location for a business, actually, but neighbors liked it, and now we have customers who come regularly, saying “Give me the usual,” and we enjoy the support of local people.
The best thing in Nezu is its people. In Nezu, newcomers like me are warmly welcomed and people gladly give advice if you have problems—a district where you can feel people’s closeness. You can also hear the spirited voices of children, here and there, and see children of different ages playing together. Adults may not even know the children, but they call out, “Time to go home, the sun is going down,” and the children reply, “Okay!” in loud voices. In Nezu, you take nostalgic scenes like this for granted.
I recommend taking a walk down the back alleys of the Yanesen area. Though narrow, the streets feature small general stores, delicious food shops, and rich greenery. My favorite pastime is finding old buildings that take you back in time to the Showa era. Please take a leisurely stroll down the back alleys of Yanesen. You will enjoy unexpected encounters.

黒田記念館は、日本近代洋画の父とも言われる黒田清輝（1866-1924年）の遺言により1928年に竣工、1930年に帝国美術院附属美術研究所として開所しました。黒田清輝の作品を常設展示していますが、特に、代表作である「読書」「智・感・情」「湖畔」などは、新年、春、秋の年3回各2週間、特別室にて公開されています。設計は、東京都美術館の旧館（1926～75年）と同じ、様式建築の名手として知られる岡田信一郎によるもので、昭和初期の美術館建築も見どころの一つです。

（東京都美術館 広報担当係長　山崎真理子）

黒田記念館　提供：東京文化財研究所

Kuroda Memorial Hall

Kuroda Memorial Hall was built in 1928 and opened in 1930 as The Institute of Arts Research for the Imperial Academy of Fine Arts. This was done with an endowment bequeathed by KURODA Seiki (1866-1924), an artist known as the father of modern Japanese Western-style painting. While many of KURODA Seiki's works are on permanent display, his foremost works, including *Reading*, the triptych *Wisdom*, *Impression*, *Sentiment*, and *Lakeside* are shown in the Highlights Gallery three times a year in January, spring, and autumn, for two weeks at a time. Designed by OKADA Shinichiro, a master designer in the Western style who also created the original Tokyo Metropolitan Art Museum building (1926-1975), the Kuroda Memorial Hall's early Showa-style architecture is a highlight for visitors.　(YAMAZAKI Mariko, Chief of Public Relations)

東京都美術館ニュース No.470

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM NEWS

発行日　2022年3月31日

発行　公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

企画・編集　東京都美術館 広報担当

デザイン　株式会社ファントムグラフィックス

翻訳　アムスタッツ　コミュニケーションズ

印刷　望月印刷株式会社

©Tokyo Metropolitan Art Museum

＊掲載情報に変更が生じる場合がございます。
最新情報は公式サイトでご確認ください

東京都美術館
〒110-0007
東京都台東区上野公園8-36
Tel　03-3823-6921
Fax　03-3823-6920

公式サイト
https://www.tobikan.jp

Twitter
tobikan_jp
tobikan_en

Facebook
TokyoMetropolitanArtMuseum

表紙の作品

ジョシュア・レノルズ《ウォルドグレイヴ家の貴婦人たち》（部分）
1780-81年 スコットランド国立美術館
Sir Joshua Reynolds, *The Ladies Waldegrave* (detail), 1780-81, National Galleries of Scotland
©Trustees of the National Galleries of Scotland

VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス紙 FSC® C138625